

# 仏社のCADデータ読み込み

## AIソフトで可能に アルム

【金沢】アルム（金沢市、平山京幸社長）は、2023年をめぐりに自社開発のマシニングセンター（MC）向け人工知能（AI）搭載機械加工プログラム自動生成ソフトウェア「アルムコード1」に、仏ダッソー・システムズの3次元（3D）CADデータを直接読み込ませるようにし、同ソフトの利便性を高める。中小製造業

の課題の一つである3D CADの図面製作を支援することで、自動化とデジタル変革（DX）化に貢献する。

ダッソー傘下の米スパイシヤルとの間で、アプリケーション・プログラミンング・インターフェース（API）連携に関するライセンス契約を締結した。これによりアルムコード1でダッソーの3D CADデータの直接読み込みが可能になった。

ダッソー製の「CATIA（キャティア）」や「SOLIDWORKS（ソリッドワークス）」などで設計したデータであれば、本来必要なデータ変換が不要になる。質を落とさず設計者の意図をほぼ反映しつつ、マニユファクチャリングデータの移行・付与ができ、段取り時間の短縮にもつながる。

アルムがCAD図面データの直接読み込みのためのパートナーを探していたところ、ダッソーが呼びかけに応じ、契約締結に至った。API連携で考えが一致した。アルムの平山社長は「連携により、当社のテーマである『完全自動化』にまた1歩近づいた。設計段階から提案できる中小製造業を増やしたい」と意気込みを示す。